

大日向小学校・中学校 学校評価第三者評価委員会記録

1. 今年度の学校評価の概要について

- 中学校について
 - 中学校の評価は3年目を迎え、小学校とは異なる質問項目を用いた評価を実施した。
 - 評価項目: 学校の理念、生活、地域・保護者との連携など。
 - 児童・生徒の平均点は横ばいも、教職員、保護者の評価は上昇。
 - 学校への安心感、見通し向上と分析。
 - 昨年度の課題であった「学びに必要な知識」は改善。
- 小学校は質問項目を変更し、3つの観点から評価。
 - 小学校においては、下学年の児童の評価平均点がやや低下した一方で、中学年および上学年では上昇傾向が見られた。
 - 下学年で「計画」「わたしプレゼン」が向上。

2. 学校の自己評価

- 中学校は開校3年目で、理念の議論と実践で共通理解が深化。
- 生徒も異年齢交流や個別学習を評価。
- 中学校は生徒の進路選択と努力を支援し、成果が出ている。
- 小学校は「学び方」に注力し、児童の集中力が高まった。
- 一方で、小学校は集団での立ち位置に関する評価が低く、人間関係の希薄化が懸念された。

3. 委員の先生方からの主なコメント

- 奥村先生
 - 学校全体が落ち着いて学びに向かう雰囲気が見られた。
 - 小学校の「他者」との関係は強み。
 - 学校づくりへの参加姿勢が見られる。
 - プロジェクト活動においては、調べ学習の進め方や、実感を伴った学びとなるような工夫について、さらに検討が求められる。
- 土岐先生
 - 中学校のプロジェクト発表が面白い。
 - 生徒の発表を聞く態度ややり取りが素晴らしい。
 - 授業に「遊び」の要素を取り入れることも有効。
 - 中学生の教材について、現状は市販のわかりやすいものを使用しているが個別学習向けの教材は他にも多くある。オランダには『OBD』と呼ばれる教育サポート機関があり、学校ごとに教材や教育方法について助言を行っている。本校でも、生徒の学びに沿った教材を提案できるような、司書のような専門職の設置が今後の可能性として考えられる。
- 荒井先生

- 学校の自由な雰囲気は素晴らしいと感じる一方で、子どもたちがより気持ちよく過ごせるよう、整理整頓に関する指導についても検討する余地があるのではないかと感じた。
- 子どもたちは、日々の様々な活動や他者との関わりを通して、善悪の判断や、より良い行動とは何かを考える力もしっかりと育っていると感じられた。

4. 主な課題と今後の方向性

地域・保護者との連携強化

- 地域や保護者との連携をさらに深め、学校運営に積極的に意見を反映できるような仕組みづくりを検討する。
- 保護者へのフィードバックの方法を改善し、学校の取り組みが保護者にしっかりと伝わるようにする。
- 学校に直接足を運ぶことが難しい保護者に対しても、学校の様子や子どもたちの学びを効果的に伝えられるよう、情報発信の方法を工夫する。

学びの質の向上

- 個別最適な学びと協働的な学びのバランスを考慮し、子どもたちが主体的に学び、共に学びを深められるような学習活動をデザインする。
- 教材の選択や活用方法について、より効果的な方法を検討し、個別学習への支援体制を充実させる。
- 児童生徒の学習内容の定着度を適切に把握し、学習の成果を評価するための方法について検討を行う。
- 子どもたちが「生命への畏敬」の念を育み、豊かな人間性を育むための教育を推進する。

学校環境の整備

- 児童生徒がより気持ちよく、安心して学校生活を送ることができるよう、整理整頓された学習環境づくりを推進する。

教職員の専門性向上と連携強化

- 教職員がそれぞれの専門性を高め、互いに協力し合いながら、より質の高い教育を提供できるよう、研修や情報共有の機会を充実させる。

規範意識と倫理観の育成

- 子どもたちが社会の中で自律的に生きていくために、規範意識や倫理観を育む教育に力を入れる。